



たくま
川田 拓真 さん

●常盤中学校 3年
ものづくりの夢

私の将来の夢は機械に関係する仕事に就くことです。そして、環境に優しいものづくりをしたいです。

小さいときから、ものを組み立てたりするのが得意だったので、このような仕事に就きたいと思ったのです。

そのため、中学校卒業後は、工業高校に進学したいと思っています。勉強に一所懸命に取り組み、将来の夢が現実になるよう頑張ります。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの

メッセージ



寒風の吹く日も増え、寒さが一段と身にしみる季節となりました。早いもので気が付けば一年の締めくくりの師走、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

先月13日、効率的な行政運営の要であり、市民の皆様様の生命・財産を守る防災拠点でもある新庁舎が完成し落成式を迎えました。「ふるさと特使」で歌舞伎役者の中村鷹之資さんがお祝いの舞を披露し、落成式に花を添えてくれました。14日、15日の内覧会では、新庁舎周辺で記念イベントも行われたこともあり、2日間で1万2千人を超える市民の皆様が新庁舎を見学してくださいました。

この新庁舎は、「市民の皆様様のための庁舎」であることを基本に考え、市民の皆様のご意見を可能な限り取り入れました。市民の皆さんに誇りと愛着を持ってもらえる庁舎になったと思っています。

今月7日には、窓口業務の引越し作業も終了し全面開庁となります。市民活動スペースや展望ロビーなど業務時間外も開放しています。市民の皆様さんにはお気軽に足を運んでいただきたいと思っています。新庁舎の完成はゴールではありません。これを契機に新しいまちづくりのスタートとして私をはじめ職員一同、気を引き締め市政発展に向け取り組んでまいります。

さて、ウインタースポーツも盛んに行われていますが、今月13日には、年末恒例のさの馬拉ソンが行われます。今年は、要望が多かった10キロコースを復活させ、フル馬拉ソンを含め4種目23部門の大会となります。毎年3千人を超えるランナーが本市に集い健脚を競います。コース周辺の皆さんは選手に熱い声援をお願いします。

忙しい年末を迎えますが、市民の皆さん、体調に気をつけてお過ごしください。

岡部 正英



今回の表紙 「新庁舎の落成式」 11月13日(金)

関係者約300人をお招きし、落成式を執り行いました。新庁舎は地上7階・地下1階の免震構造の建物で、防災拠点となるものです。各課が順次移転を行っており、12月7日(月)に全面開庁します。

平石 栄子さん

(秋山町)



○プロフィール

葛生東(相生町)出身

大学進学を機に名古屋に移り、就職するが、田舎暮らしに興味を持ち、佐野市の地域協力隊員になる。

現在、秋山地区で奮闘中。

県南初の地域おこし協力隊員

今年7月1日付けで佐野市地域おこし協力隊員として秋山地区に赴任した平石さんは、高校まで葛生東で過ごし、名古屋の大学に進学し、卒業後も名古屋で就職していました。

そんな中「今の仕事はこのまま続ける仕事ではない」と思ったことと、有機農法にたずさわる田舎暮らしの自給自足の生活に興味を持ち、協力隊員に応募し、採用と共に秋山に移り住みました。

市の募集のタイミミングと自身の思いがちょうど一致したそうです。

秋山での生活がスタートして4カ月。地域の方々のサポート役として頑張っていますが、「地域の活性化に共に取り組んでいく」という自身の思いと地元の方々が持っている期待感にギャップを感じています。

平石さんには参考にする同僚もなく、相談したい先輩もいません。「協力隊員としては県南で初めてであることもあって、模索中です」と活動に戸惑いも見せています。

「いまでできることはイベントの手伝いや事務的な作業が多いです。いまは秋山発信の広報活動が自分の使命だと思っています」とのこと。



あきやま有機農村未来塾では「酒米づくり」に取り組み、平石さんも運営に参加しました。

地域の人々からは、見習わなくてはならない程の元氣やたくましさを感じているそうです。地元の皆さんや、地域の活性化に取り組む地元団体「あきやま有機農村未来塾」の間と一一緒に、地域に生まれるさまざまな問題に取り組み、「自分にできる何かを信じて頑張ります」と話してくれました。

平石さんは試行錯誤しながらも日もももんに身を包み、寒い冬を前に小さな体で走り回ります。

(市民記者 山崎ちかこ)

平石さんは「佐野市地域おこし協力隊」として、フェイスブックで情報を配信しています。

ぜひ「いいね!」して、ご覧になってください。

佐野弁 ばんざい

そそっかしいを ソソラツケという

落ち着きがなく、かるがるしくふるまったり、あわただしそうに行動したりすること(または人)を、ソソラツケといったり、ソソラツケ(ー)などといいます。若い人は、最近ほとんど使わなくなってしまうましたが、中年過ぎの人たちは、今でも日常的に使っています。

「うちの子つたら、ソソラツケから、ねんじゅうケツマグツ(つまずい)たり、オツコロガツ(転ん)たりして、生傷が絶えねんだガネ」

ソソラツカ(ケー)と意味も用法も同じ方言にソソラがあります。ソソラツカ(けー)が省略されたものです。

「あの男はワケー(若い)頃から、ガサガサ(軽率)でソソラなもんだから、何やったって失敗ペー(ばかり)してるんだよ」

子どもなどが大小便をもらすと、それを見た母親は「あら!まあ、そそうしちゃって…」などといいます。この「そそう」は、本来はいい加減である、軽率である、余計なことをするといった意味です。このことばがもとになって、ソソラツカ・ソソラツケ(ー)が生まれました。これと意味的によく似たものに、チヨチヨラツカ(ケ)・チヨチヨラなどがあります。意味的にはどちらかといえば、おつちよちよいに近い方言です。

「あの人はチヨチヨラツケだから、約束した時間になつたつて、いつくるんだかわかんネカネネー(わからないからね)」

(市民記者 森下喜一)

